

# CAMPUS Asia サマースクール

## WS 参加者レポート

### オルビアワークショップ編

---

九州大学大学院 修士1年 大池岳

#### オンラインワークショップ

---

日時：2025年7月21日-24日 レクチャー  
2025年7月28日,31日 講評会  
場所：オンライン

#### 現地ワークショップ

---

日時：2025年9月1日-5日 ワークショップ  
2025年9月6日 サルディーニャ島ツアー  
場所：サルディーニャ島オリビア

#### CAMPUS Asia サマースクールテーマ

---

Environmental Project for the Gulf City of Olbia  
湾岸都市オルビアのための環境プロジェクト

#### 参加大学

---

九州大学、大分大学、同済大学(中国)、釜山国立大学(韓国)、ウィーン工科大学(オーストリア)、  
サッサリ大学、パレルモ大学(イタリア)

## ○ワークショップ概要

---

今回のワークショップは、「湾岸都市オルビアのための環境プロジェクト (Environmental Project for the Gulf City of Olbia)」をテーマに開催されました。

このプログラムの根底には、建築と都市計画は切り離せない密接な関係にあるという考え方があります。そのため、単に建物を作るだけでなく、その土地が持つ自然環境や歴史的な背景を読み解く「テリトリアル・アプローチ (広域的な視点)」を取り入れることが重視されました。

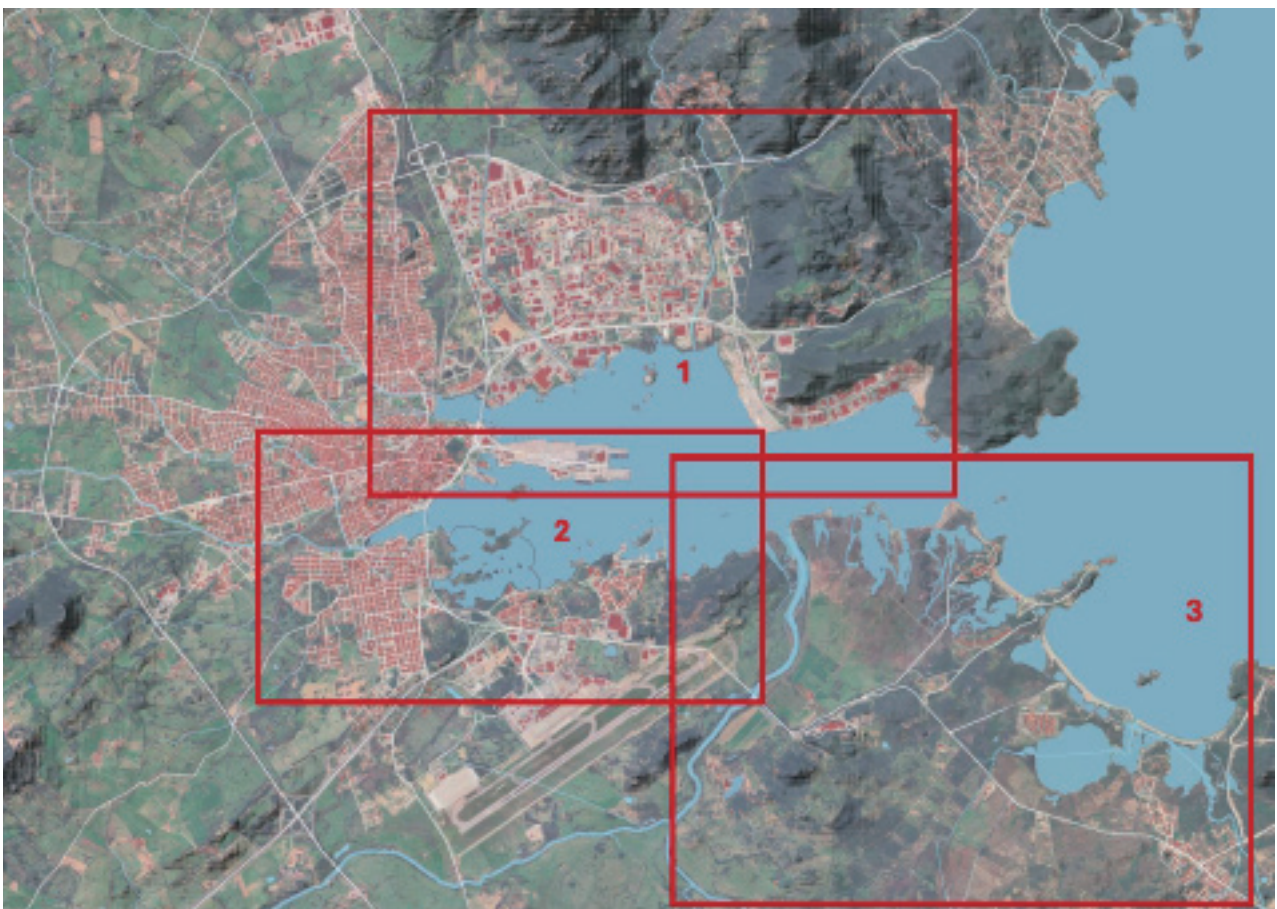
主な目的は、オルビアの内湾における環境的な課題や生態系の脆弱性に配慮しながら、持続可能な都市への変化を促すことです。

最終的には、オルビア市の戦略的計画である「ガルフ・コントラクト (Gulf Contract)」の発展に寄与するような、具体的で新しいプロジェクトの提案を行うことが求められました。

## 対象敷地

---

1. 内湾 (インナー・ガルフ) 北岸：工業地域と都市の統合
2. 内湾 (インナー・ガルフ) 南岸：都市公共空間の接続
3. パドロンジャンノ川の都市・環境河川およびデルタ公園



オルビアの地図と WS の対象敷地

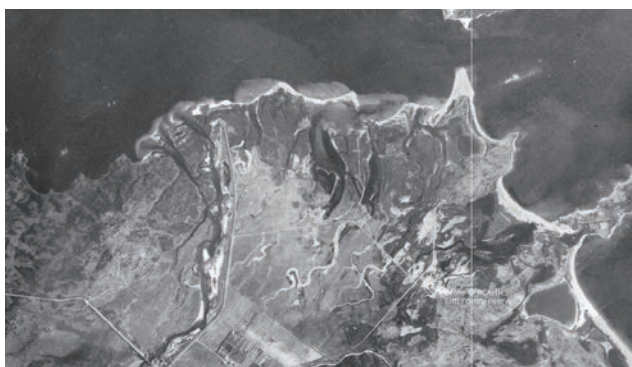
## ○敷地 (site3) 概要

---

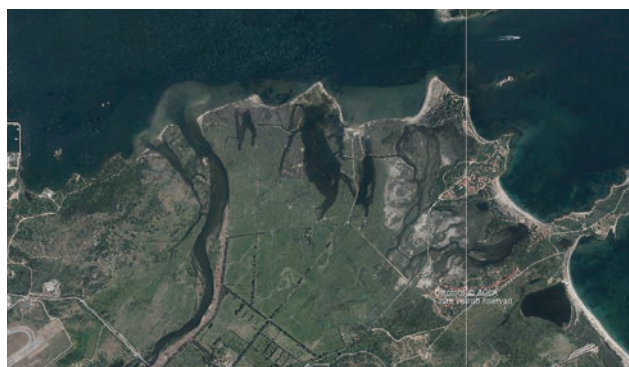


私が担当した Site 3 は、「パドロンジャンノ川の都市・環境河川およびデルタ公園」です。この場所は、豊かな生態系の中心でありながら、長期間にわたって十分に活用されていないエリアでした。このサイトにおける計画のねらいは、国の「河川契約 (River Contracts)」プログラムの一環として、リバーパークとサ・コロンチェッダ (Sa Corroncedda) 地区を再生・活性化させることにあります。具体的には、以下の3点の実現が求められました。

- ①環境再生とアクセスの向上 遊歩道やカヌー、サイクリングのルートを整備し、レクリエーションエリアを設けることで、市民が豊かな自然環境を楽しめるリバーパークとして再生する。
- ②社会的包摂 (ソーシャル・インクルージョン) 単に環境を直すだけでなく、環境保全活動などを通じて安定した雇用を生み出すことも目的の一つとし、歴史的に周縁化されていたこの地区を、地域コミュニティにとって大切な場所へと変え、社会的な統合を目指す。
- ③都市と自然の接続 南岸の都市エリアとパドロンジャンノ川のリバーパークとのつながりを強化し分断されていた都市と自然を物理的・機能的に結び直す。



1940年の湿地周辺の航空写真



2013年の湿地周辺の航空写真

## 1 日目 (9/1) Welcome speech & 敷地見学

---



初日には、オルビア市長や各大学の先生の挨拶からWSがスタートしました。レクチャでは地元の専門家からお話を伺うことができました。オンラインWS中には得ることができなかった情報を得ることができました。

敷地見学の前のレクチャー



敷地見学の風景 海と近い都市

午後には、それぞれの敷地を参加者全員で巡りました。港湾都市らしくどの敷地も海との関係性が強い印象を受けました。一方でそれぞれの敷地で海と陸の関係性が異なるように感じました。3つのエリアの違いがどのように提案に現れてくるのか楽しみでした。

## 2 日目 (9/2) WS Discussion

---



各大学の先生、専門家からのフィードバック

初日の敷地調査を踏まえて提案の方向性を定めていきました。先生によるエスキスをうけ、新しい視点や、案の飛躍に気づくことができました。提案は建築スケールを超えており、土木に近い領域になりました。水理学の知識など専門外の分野からの指摘もあり充実したエスキスになりました。

### 3 日目 (9/3) WS & 敷地見学 2



サッサリ大学の学生と藍谷先生と 2 回目の敷地調査

サッサリ大学の学生が敷地をドローンで撮影することと一緒にいきました。初日の敷地調査では行けなかった場所に行くことができ、改めて湿原の豊かさに気づくことができました。2 日後の発表に向けて設計作業を本格化していきました。



藍谷先生によるドローンの空撮 サイト 3 は豊かな湿地帯が広がる

### 4 日目 (9/4) WS 作業



最終日の発表に向けてほぼ徹夜で作業を進めました。コンセプトをどう伝えるか、この湿原の環境を守るためにはどのような建築物が適しているのか。研究室の違うメンバーの各々の専門分野を生かしながら作業を分担して進めていきます。

最終発表に向けて提案を詰めていく

## 5 日目 (9/5) 最終発表



発表の様子



先生方からのコメント

私たちは「Minimal Intervention for Unchanged Nature and Landscape」のタイトルで発表しました。自然環境を変化させない、違法な開発が行われないように自然を守るために何をすれば良いのかを考えました。

大きな強い建築ではなく、「弱い建築」日本の流れ橋のような建築が作れないか。そのような思いで7月のオンラインワークショップから取り組んできました。現地WSでは現地で体験した豊かな湿地の環境を生かしつつこの環境を守るために塔、遊歩道などを敷地全体に分散して配置しました。

他大学の学生とは違った視点で提案できたのではないかと思います。

### ・提案概要

オルビア市は港湾・工業都市として発展を遂げた一方、その沿岸部は波の浸食により地形が変化し続けています。豊かな生態系を持つこのデルタ地帯を守り、未来へ継承するために、私たちは自然を支配する「強い建築」ではなく、環境に寄り添う「弱い建築」を提案しました。

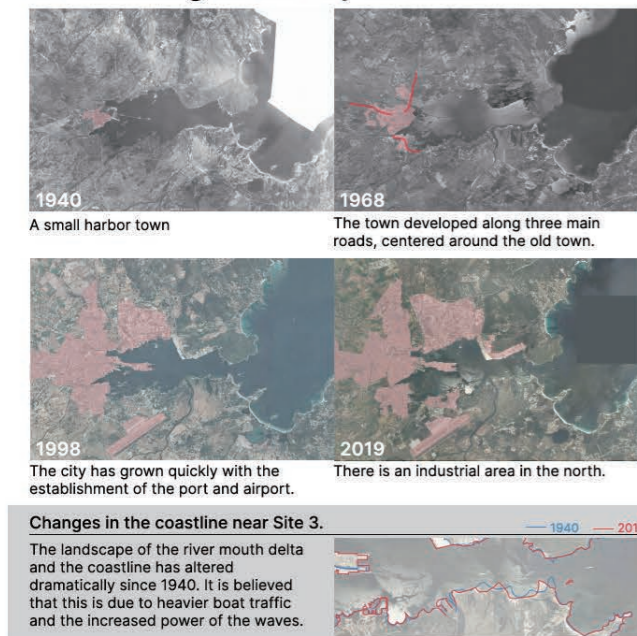
本計画の核となるのは、環境の変化に柔軟に適応するインフラです。象徴的な「展望タワー」は自然換気を促す多層構造を持ち、湿原には潮位の変化に対応する「浮遊する遊歩道」を整備しました。これらは過度な開発を抑制する防波堤となると同時に、来場者をタワーから湿原、そして海中の「トンネル」へと導くシークエンスを生み出します。

普段は立ち入ることのできない、湿原に近づき新しい学びを得ることができます。またこれらを作ることによって美しい生態系を守る建築を目指しました。

建築自体が環境に合わせて変化することで、守るべき自然の姿を変わらぬまま維持する。私たちは、生態系を再生・維持するための触媒としての建築を提案しました。

**00 Analysis**

**The founding of the city of Olivia.**



**01 Back Ground**

**Abundant nature and its problems.**

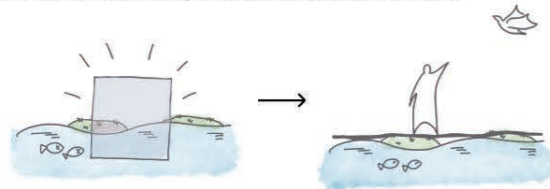
Site 3 is located on a river delta and is home to a rich natural environment. It has become a spot visited by rare water birds. However, it is far from the city, so access is poor. Furthermore, the coastline is changing its shape due to wave erosion.



**02 Concept**

**Minimal architecture in harmony with nature.**

Creating "Strong architecture" leads to the destruction of nature. The alternative is to pursue "Weak architecture" aiming for a coexistence with the natural world. What is the ideal state of being that allows for symbiosis with nature?

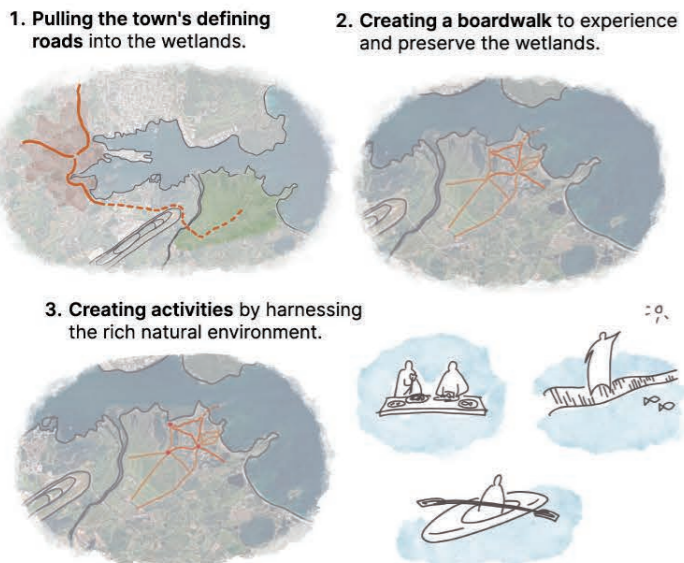


**03 Proposal**

**Minimal Intervention for Unchanged Nature**

In this area, people are carrying out illegal development to live closer to the natural environment. We must ask: How can we engage with the wetlands while also preserving them?

The solution may be "to build something to protect the environment so that it can remain unchanged."



**Minimal Intervention for Unchanged Nature and Landscape**



**Summer School Workshop 2025**

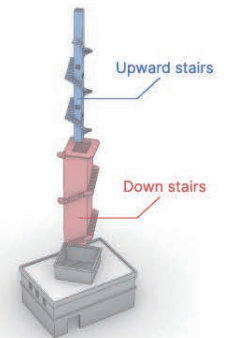
**Kyushu University**

Misa Nakasuji, Gaku Oike, Yusaku Ito

**05 Diagram**

**Tower**

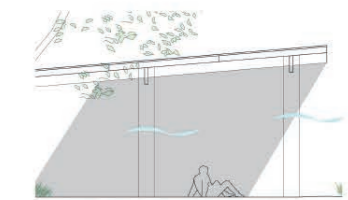
The tower's upper section is constructed in multiple layers. Arranged concentrically, these are the descending route, the ascending route, and a central lightwell that illuminates the base. This upper portion is deliberately enclosed to eliminate exterior views. To counteract the darkness, a void is carved through the center. This also creates a chimney effect, which produces a pleasant airflow and ensures a comfortable interior environment.



**Walking base**

At the heart of the site is a shelter that serves as both a hub and a resting place, defined simply by a roof and the shade of a large, central tree. From this point, visitors can embark on various activities, and to this point, they can return for a moment of rest.

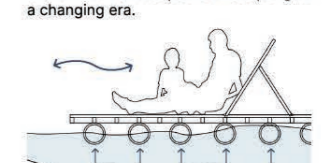
Meteorological analysis of the site showed that blocking direct sunlight in the summer would create a comfortable environment. Therefore, it was designed as a semi-outdoor space for creating shade, where one can leisurely engage with the surrounding nature.



**Boardwalk**

This boardwalk floats on the water's surface, enabling it to respond fluidly to the evolving form of the wetlands as the years pass.

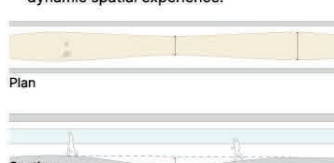
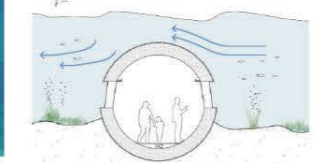
Conceived as a "weak architecture" instead of a "strong architecture," its design is both sensitive to the natural environment and capable of adapting to a changing era.



**Undersea tunnel**

The form of the tunnel is designed to avoid impeding water currents. Its circular cross-section was chosen to create a shape with low fluid resistance.

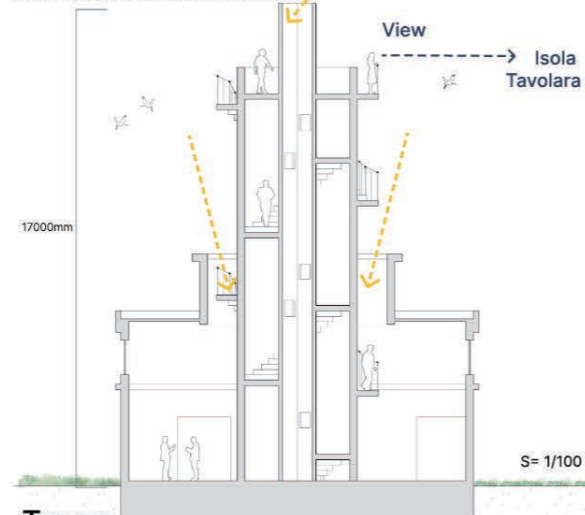
Furthermore, the floor plane is a gentle slope. This gradual incline and decline alters the perceived width of the path. The vertical shift also changes one's point of view, resulting in a varied and dynamic spatial experience.



**04 Design**

**1: Arrival & Lookout**

Arrive and climb the tower for an overview.

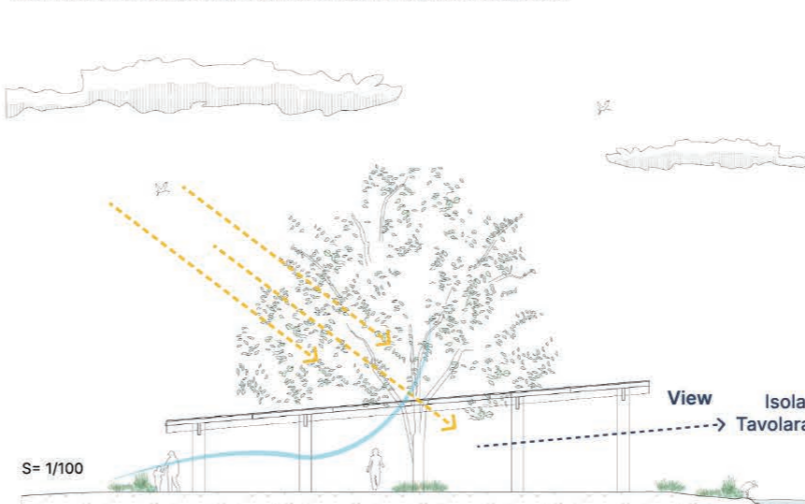


**Tower**

The tower possesses a design that stands in deliberate contrast to the nearby lighthouse. It is the first place visitors ascend. Its base is oriented to face the road, while its upper portion establishes an axis with the Basilica di San Simeone and Isola Tavolara. The journey upwards is enclosed, concealing the exterior view until the summit. There, visitors are met with an expansive panorama of nature that suddenly unfolds before them. They descend with a sustained sense of excitement, having confirmed the next stage of their adventure.

**2: Break & Connection**

A short rest before connecting to the next activity in the shade of a large tree.

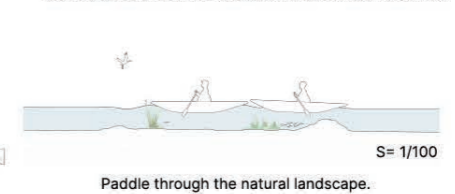


**Walking base**

Built at a key junction of the walking paths, this base acts as a hub. From here, visitors can branch out to enjoy local food, observe the wetlands, or explore the Undersea tunnel. It also serves as a resting spot before the next stage of the adventure, offering a place to pause in the shade of a large tree and feel the breeze. The roof shares the same axis as the tower, oriented towards Isola Tavolara. It's a space for a short respite, offering views of the island in the distance and the wetlands in the foreground.

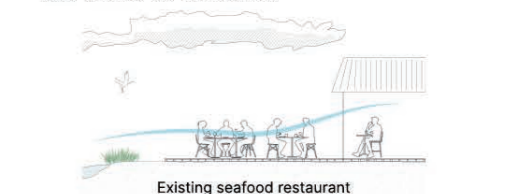
**3: Nature Immersion: Canoe Exploration**

Canoeing has been introduced as a new wetland activity.



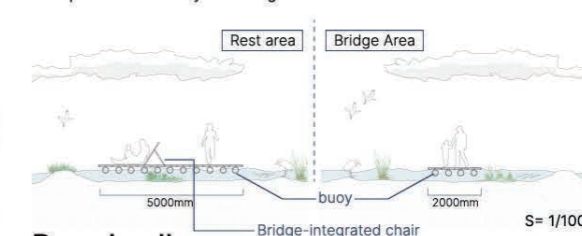
**4: The Joy of Food: Fresh Fish and Shellfish**

Enjoy fresh-off-the-boat seafood.



**5: Nature Immersion: Wetland Observation**

Experience nature by observing the wetlands.

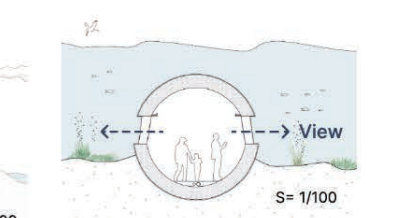


**Boardwalk**

The boardwalk is designed for an intimate observation of the wetlands, while also guiding visitors to their next activity. Underneath, it provides shade, creating a new habitat for wildlife in the marsh. The installation of this boardwalk is a definitive step to prevent any more development, ensuring the beautiful wetlands are preserved long into the future.

**6: Nature Immersion: Into the Sea**

Experience nature by heading into the water.



**Undersea tunnel**

This tunnel offers a view into the underwater world, which is otherwise impossible to see. It also provides a look at the artificial reef built to protect the beach from wave erosion.

## ○番外編 サルディーニャ旅 (8/30)



Foresteria Monastero San Pietro di Sorres



サルディーニャ島の遺跡 ヌラーゲ



Chiesa della SS. Trinità di Saccargia

サルディーニャ島に到着した日、先生方と学生2名でサルディーニャ島の建築見学に向かいました。

初めに訪れたのは Foresteria Monastero San Pietro di Sorres という修道院です。ここではちょうど地元の方の結婚式が開催されていました。お昼ご飯を食べていると、街の中を結婚式の車列がクラクションを鳴らしながら走り去っていくのを目撃しました。日本の結婚式とは雰囲気違っており興味深かったです。サルディーニャ島の遺跡：ヌラーゲは巨石文明のもので先史時代からあるものとのことでした。この時代から、二重ドームのような構造があることを知りとても驚きました。最後に訪れたのは、Chiesa della SS. Trinità di Saccargia。この教会はサルディーニャ島のロマネスクを代表する建築とのことでした。側面の通路であるアイルがなく、十字に交わるトランセプトがある堀先生も見ることがないとても珍しい形式の教会でした。黒と白の石を交互に使用したファサードに惹かれました。私のイタリアWSの2週間のイチオシ建築です。

## ○番外編 バス旅：サルディーニャ島中心部 (9/6)



オルゴゾロの壁画前で集合写真

最終日は、サッサリ大学が企画してサルディーニャ島の中央部へバスで行きました。ここでも、遺跡を訪れました。昼食は、牧場で郷土料理の豚の丸焼きやパスタをいただきました。最後に訪れたオルゴゾロは、壁画が有名な街でした。街の至る所の壁に絵が描かれておりどんな壁画があるか探しながら歩くことが楽しかったです。

## ○番外編 個人的に気になったもの～煙突～

---

イタリアの街並みを見ていて、各住宅に煙突がついていることに驚いた。

煙突の写真を撮影していると様々な種類の煙突を見つけることができたので報告をしたいと思います。日本ではなかなか見ることのできない煙突をたくさん見ることができ良かったです。

